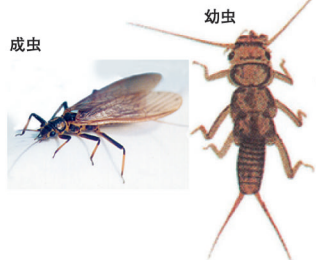


きれいな水(Ⅰ)の生物

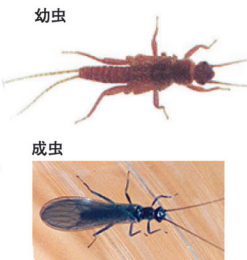
採取できたら ☐ にチェックを入れていこう!

ヤマトフタツメカワゲラ ☐



成虫 幼虫
体長約16mm。体は黄褐色で、溪流の流れの緩い石の下や間に生息します。腹部下面と肛門部にえらをもっています。

オナシカワゲラ ☐



成虫

10mm前後の小さなカワゲラで、日本に広く分布し、早春から晩秋にかけて現れます。

オオヤマカワゲラ ☐



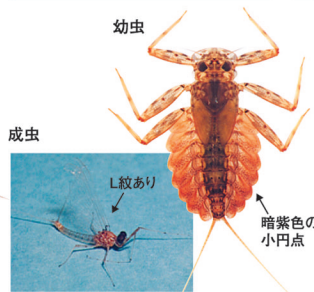
命名は、明治時代の陸軍元帥大山巖からとったものと言われています。体長は約30mmで、広く分布しています。腹部第10節腹面は濃色で、体の斑紋が目立ちます。

オオカラカワゲラ ☐



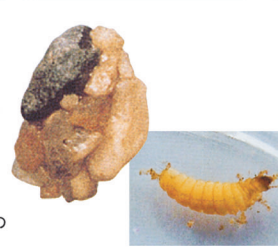
日本にごく普通に見られる種類で、溪流の石の間や下にすんでいます。体長は約30mmで、前単眼前方にV字型の淡色部があります。成虫は6〜8月頃現れます。

エルモンヒラタケロウ ☐



成虫 幼虫
体長約11mm。鰓(えら)は7対、葉状のえらを持ち、紅色をもち、暗紫色の小円点があります。溪流の流れの速い石面に付着して生活しています。

ヤマトビケラ ☐



体は太くイモムシ状で、足は3対。色は茶色で、頭と胸は固くて茶色。亀の甲のような砂つぶの巣をかついでいるのすぐ分かります。巣の下面には頭と尾部を出す穴があります。

ムナグロナガレトビケラ ☐



体長約18mm。体は円筒形で細長く、胸と腹部は紫ねずみ色で気管鰓(さい)はありません。

ブユ ☐



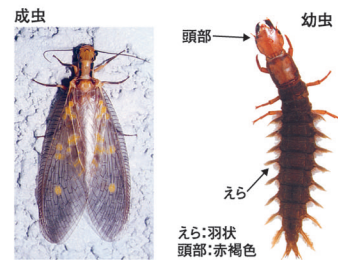
体長約5mm。腹の後方が太くなっています。流れの速い所の石や草の表面についています。成虫は岩刺します。

アミカ ☐



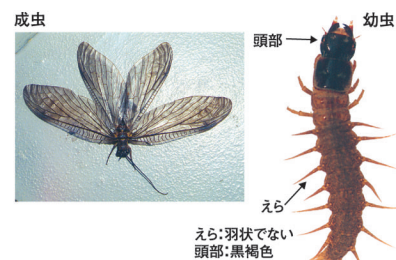
頭から2本の触角を突き出し、口ポットのような形をしています。腹部に6個の吸盤があり、急流の岩の上にくっついてます。

ヘビトンボ ☐



成虫 幼虫
体長約70mm。前後翅とも大きさ・構造がよく似ています。頭部には細長い触角があり、強大な口器をもっています。幼虫の俗名は「孫太郎虫」と呼ばれ、ふるくから子どもの「かんのむし」の薬として知られています。肉食性で他の水生昆虫を食べます。

ヤマトクロスジヘビトンボ ☐



サワガニ ☐

多くは上から見て右側のツメが大きいと雄(オス)で、両方同じ大きさなら雌(メス)です。



赤ちゃんを育てるおかあさんガニ

メスのおなか

オスのおなか

きれいな所にすみ、生息場所によって、淡青色・紅褐色など変化があります。甲幅(こうふく)が約2.5cmで日本で唯一淡水で一生を過ごします。食用にされますが、生で食べないでください。

ウスムシ ☐



体長10〜20mm。体は平たく、柔らかく、石の上を流れるように、はって移動します。

ヒゲナガカワトビケラ ☐



成虫は、直接潜水して砂礫に卵を産みつけます。1ヶ所にかためて産みつけ、2000〜15000個にもなります。幼虫は巣のまわりに、屋根状の捕獲網を張りめぐらし、そこにかかる藻類を食べます。